

倫理

社会科標準問題

令和 元年度

注意

1. 問題は1から5までであるが、そのうち4題を解答すること。どの4題を解答するかは、学校の指示に従うこと。
2. 解答はすべて解答用紙の所定の欄に指示通り記入すること。
3. 所要時間は50分とする。
4. 解答用紙の選択した(または指定された)問題番号の□に○を記入すること。

大阪府高等学校社会（地歴・公民）科研究会

1 次の文章は18歳になり選挙権を得る高校生3年生に対し、「有権者としての心構え」という主題で倫理の教員が書いた文章である。この文章を読み、後の問いに答えなさい。

古代ギリシアの政治家にアルキビアデスという人物がいる。彼は容姿、家柄において卓越し、巧みな弁舌を持ち、民主政をとるアテネにおいて非常な人気を得ていたと伝えられている。彼はペロポネソス戦争を主導し、アテネを衰退へと導いたことから、衆愚政治を代表する扇動政治家であったと現代では言われている。

アルキビアデスが師と仰いだのがソクラテスである。ソクラテスは(a)法や慣習などのノモスについて、対話を通じて探求した。このようなソクラテスの活動は当時の市民たちの反発を買い、最終的に(b)ソクラテスは死刑に処せられることになる。

アルキビアデスにアテネの命運を委ね、ソクラテスを死に至らしめたのは、まぎれもなく当時のアテネ市民たちであった。言い換えるならば、民主政こそがアテネを衰退させ、ソクラテスを死なせたといってもよい。少なくとも、プラトンはそう考えた。プラトンは(c)徳についての考察に基づき、理想の国家像について論じ、民主政治は必然的に衆愚政治に墮落し、僭主政治にいたると主張した。そしてプラトンは哲学者こそが国家を統治すべきであると考え、独裁的な政体を肯定したのである。民主政は完全無欠の政体ではない。いつでも衆愚政治に墮落する危険性が存在しているのだ。

ではプラトンが言うように、優れた一人の人間に統治を任せるのがよいのか。この考えに対し(d)プラトンの弟子であったアリストテレスは反論している。たしかに一人の人間に国家の統治を任せることは、最善の国家を実現する可能性を持っている。しかし同時に最悪の国家になる可能性も決して低くはないのだ、と。言い換えるならば、一人の人間の資質に依拠する政体は最善と最悪の間で大きく揺れ動く。アリストテレスが重んじた(e)「中庸」の観点から考えると望ましいものではなかったのである。

プラトンが理想とした哲人政治は、帝政ローマにおいて(f)マルクス＝アウレリウスが現実のものとするようになる。マルクス＝アウレリウスは五賢帝の一人としてパックス＝ローマの時代を支え、ローマ帝国に繁栄をもたらし、プラトンの理想を証明した。しかし忘れてはならないのは、マルクス＝アウレリウスは五賢帝の最後の一人であるということである。マルクス＝アウレリウスは実子を後継者としたが、この後継者の時代から(g)ローマの繁栄に陰りが見え始めることになる。優れた人間は必ずしも優れた人間を選ぶわけではないのである。そして帝政ローマのみを見ても(h)キリスト教徒を迫害したネロや残忍さで知られたカリグラなど、暴君は枚挙にいとまがない。その意味では(i)アリストテレスもまた後世を見通していたと言えるだろう。

いずれにしても確実なことは、私たちは自らの手で政治を担う人間を選ぶことができる時代に生きているということである。それは言いかえると、私たちはかつてのアテネ市民のように「アルキビアデス」を選ぶ力も持っているのだ。(j)したがって私たちが政治に参加するにあたり、心掛けなければならないことがある。それは、自らが選ぶようとしている人間が容姿、家柄、弁舌だけの人間ではなく、真に優れた人物かどうか見極める力を持たなければならないということである。真に優れた一人の人間が国家を統治するならば、理想の国家が実現することになる。だからこそそのような力をこれから大人になる若者たちが持つことが必要なのである。

問1 下線部(a)に関連して、プラトンの著作においてソフィストの一人であるトラシュマコス以下のような主張を展開している。この主張に反発した生徒Wはソクラテスの思想に基づき反論を試みようとした。その反論としてソクラテスの思想に基づいているものとして最も適当なものを下の①～④のうちから一つ選べ。

私が言うのはこのように、「正しいこと」とは全ての国において同一の事柄を意味しているということだ。すなわちそれは、現存する支配階級の利益になることに他ならない、ということなのだ。しかるに支配階級とは、権力のある強い者のことだ。したがって、正しく推論するならば、強い者の利益になることこそが、いずこにおいても同じように「正しいこと」なのだ、という結論になる。

- ① 何が「正しいこと」であるかは、人によって異なるものであるから、全ての国で通用するような「正しいこと」が存在すると考えるのは間違っている。
- ② 「正しいこと」は快樂を抑え、苦痛に耐えることによって行うことができるものであるから、「正しいこと」が利益や幸福をもたらすと考えるのは間違っている。
- ③ 金銭や地位のような利益ではなく内面的な善さを実現することが「正しいこと」であるから、強い者の利益になることが「正しいこと」と考えるのは間違っている。
- ④ 特定の人々ではなく全ての人に利益をもたらす行為が「正しいこと」であるから、「正しいこと」を支配階級の利益になることと考えるのは間違っている。

問2 下線部(b)に関連して、生徒 X は「ソクラテスが死刑になった理由」について興味を持ち、調べた結果を以下の文章にまとめた。以下の文章の下線部(ア)～(ウ)のうち、ソクラテスの思想に合致した記述はどれか、その正誤の組み合わせとして、最も適当なものを下の①～⑥のうちから一つ選べ。

ソクラテスは知者と言われた人々をたずね、「善美のことがら」について質問したが、誰一人として十分に答えることはできなかった。そこで(ア)ソクラテスは自分が「善美のことがらについて何も知らないこと」を知っている分、知らないのに知っている人々よりも知者であることに気づいたのである。(イ)ソクラテスによれば、人間は「善美のことがら」について正しく知るのであれば、必ず善を求めるはずであり、自ら悪を求める者など存在しないとされる。したがって、(ウ)自らの使命はアテネの市民に「善美のことがら」について教えることであり、そのためにはまず市民が無知であることを伝えなければならないとソクラテスは考えたのである。このような活動はソフィストからも伝統的な価値観を重んじるアテネ市民からも白眼視された。そのような状況の中、「国家の伝統的な神を冒瀆し、青少年を墮落させた罪」によってソクラテスは告発されることになる。市民たちに許しを請うことを勧める友人に対しソクラテスは「自分が最良と判断して行うことを、死を恐れて放棄することはできない」と答えている。ソクラテスにとって使命は死よりも重いことだったのである。

- ① ア 正 イ 正 ウ 誤
- ② ア 正 イ 誤 ウ 正
- ③ ア 正 イ 誤 ウ 誤
- ④ ア 誤 イ 正 ウ 正
- ⑤ ア 誤 イ 正 ウ 誤
- ⑥ ア 誤 イ 誤 ウ 正

問3 下線部(c)に関連して、プラトンとアリストテレスの考えた「徳」についての説明として、最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① プラトンは人間の魂を理性・気概・欲望の三つの部分に分けて考え、それぞれの部分に知恵・希望・節制の徳が対応していると述べた。

- ② プラトンは魂の三つの部分が互いを抑制することによって魂全体の徳として正義が実現すると考えた。
- ③ アリストテレスは知恵の徳を得るためには観想の生活を送ることが重要であると考え、この徳を得ることによって人間は適切な行動を選択できるようになると考えた。
- ④ アリストテレスは正義の徳の一つとして配分的正義と調整的正義を考えたが、配分的正義とは富や名誉を功績に応じて配分することで実現するものである。

問4 下線部(d)に関連して、以下の絵画はラファエロによって描かれた「アテネの学堂」である。この中心にいる2人の人物がプラトンとアリストテレスであり、両者の姿はそれぞれの思想を表していると言われている。この2人のうち右側に描かれている人物の考え方をA・Bから、その考え方を表す資料をア・イからそれぞれ選ぶとき、組み合わせとして正しいものを下の①～④のうちから一つ選べ。



<考え方>

- A 「ものの本質」は感覚では認識することができない別の世界に存在している。
- B 「ものの本質」はこの世界に現実に存在している個々のものに内在している。

<資料>

ア 私が主張するのは全ての美しいものは「美」によって美しいというこの点なのだ。
 イ 我々は「これ」なる特定の質料から「このような」形のものを作り、生む。

- ① A－ア ② A－イ ③ B－ア ④ B－イ

問5 下線部(e)に関連して、アリストテレスの考えた中庸の徳の一つに友愛がある。「愛」という語が西洋源流思想にたびたび登場することに気が付いた生徒Yは3枚のカードを作り、フィリア・エロース・アガペーの違いを理解しようと試みた。以下のカード ア～ウはそれぞれどれについての記述であるか、その組み合わせとして正しいものを下の①～⑥のうちから一つ選べ。

ア この愛は全ての人間に対して無差別、無条件に注がれるものであり、決して見返りを求めるものではない。人間はこの愛に応え、他の人々を愛するべきである。
 イ この愛は対等な人と人との関係の中で生まれるものである。この愛によって人と人とは結びつき、社会を形成することができる。
 ウ この愛は人間の魂が生まれる前に見ていたものを現世において追い求めようとする愛である。この愛に基づいて哲学は生まれる。

- | | | |
|----------|--------|--------|
| ① ア フィリア | イ エロース | ウ アガペー |
| ② ア フィリア | イ アガペー | ウ エロース |
| ③ ア エロース | イ フィリア | ウ アガペー |
| ④ ア エロース | イ アガペー | ウ フィリア |
| ⑤ ア アガペー | イ フィリア | ウ エロース |
| ⑥ ア アガペー | イ エロース | ウ フィリア |

問6 下線部(f)に関連して、ヘレニズム時代にはストア派とエピクロス派が成立しており、以下の文章はそれらのいずれかの思想家によって書かれたものである。この文章の著者が属する学派をA・Bから、この文章の著者が主張したことをア・イからそれぞれ選ぶとき、組み合わせとして正しいものを下の①～④のうちから一つ選べ。

もろもろの世界も、またわれわれの世界でたえず観察される事物に似た形をしたいづれの限られた大きさの合成体も、全て無限なものから生成したのであり、それらは大きいものも小さいものも、全て特殊な原子集塊から分離したのである。そして、それら全ては、再び分解される、すなわち或るものは速やかに、或るものは遅く分解され、また或るものはこれこれの原因により、他のものはしかじかの原因によって働きを受けて、分解されると、信すべきである。

<学派>

- A ストア派 B エピクロス派

<主張>

ア 死を自然な運命として引き受け、ロゴスに従って受け入れることが望ましい。
 イ 死後の世界を迷信として否定し、死を平静な心で受け入れることが望ましい。

- ① A－ア ② A－イ ③ B－ア ④ B－イ

問7 下線部(g)に関連して、ローマ帝国の分裂の時期に活動した思想家にアウグスティヌスがいる。アウグスティヌスはキリスト教の教義を確立するために、様々な信仰・思想を持つ人々と論争を行っていた。以下のA・Bはその論争の相手であったマニ教徒とペラギウス派の主張であり、ア～エはアウグスティヌスの思想を述べたものである。A・Bの主張と、その主張に対する反論となっているアウグスティヌスの思想の組み合わせとして、正しいものを下の①～④のうちから一つ選べ。

- A マニ教徒の主張：善神と悪神が人間の心に働きかけ、行動に影響を与えている。
- B ペラギウス派の主張：人間は自らの意志の力で己を律し、正しく生きることができる。

ア 世界の歴史は神の国と地の国の戦いの中にある。
 イ 人間が罪を犯すのは自らが持つ自由意志のためである。
 ウ 原罪を負っている人間が救われるのは恩寵によってのみである。
 エ 神は父・子・聖霊の三つのペルソナを持つ三位一体の存在である。

- ① A－ア B－ウ ② A－ア B－エ
- ③ A－イ B－ウ ④ A－イ B－エ

問8 下線部(h)に関連して、ネロによって迫害された人物の一人にパウロがいる。パウロについての記述として、最も適当なものを次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 律法の形式的遵守を批判し処刑されたが、復活し、神の子として信仰の対象となった。
- ② 神の存在などの宗教的な事柄は哲学から排除すべきと説き、スコラ哲学を解体した。
- ③ イエスの死を贖罪として意義付け、地中海世界にキリスト教の教えを伝道した。
- ④ 出エジプトを主導した預言者であり、その道程において神から十戒を授かった。

問9 下線部(i)に関連して、13世紀にイスラーム世界からヨーロッパにアリストテレス哲学が流入し、スコラ哲学に大きな影響を与えたことを知った生徒Zは、イスラーム思想について詳しく調べてみることにした。その結果をノートにまとめたものが以下の文章である。以下の文章の空欄あ～うに入る語・文章の組み合わせとして正しいものを下の①～⑧のうちから一つ選べ。

イスラームにはムスリムが実践すべき義務が五行としてまとめられている。クルアーンには五行について次のように書かれている。「本当に信仰して善行に励み、礼拝の務めを守り、定め(あ)をなす者は、主の報奨を与えられ、恐れも憂いもない」。ここで言われている(あ)とは(い)という義務である。この義務は、全ては神が与えたものという思想に基づいている。同時にこれは(う)という目的もあると言われている。

- | | | | | | |
|-----|------|---|-----------|---|----------|
| ① あ | ジハード | い | 貧しい人を援助する | う | ウンマを拡大する |
| ② あ | ジハード | い | 神のために戦う | う | ウンマを拡大する |
| ③ あ | ジハード | い | 貧しい人を援助する | う | 食欲さを克服する |
| ④ あ | ジハード | い | 神のために戦う | う | 食欲さを克服する |
| ⑤ あ | ザカート | い | 貧しい人を援助する | う | ウンマを拡大する |
| ⑥ あ | ザカート | い | 神のために戦う | う | ウンマを拡大する |
| ⑦ あ | ザカート | い | 貧しい人を援助する | う | 食欲さを克服する |
| ⑧ あ | ザカート | い | 神のために戦う | う | 食欲さを克服する |

問 10 下線部(j)の結論を読んだ生徒W～Zが話し合いを行った結果、この結論には文章の他の部分と矛盾する点があるということで意見が一致し、この文章を書いた教員に伝えるべくことにした。以下の内、その矛盾を正しく指摘しているものはどれか、最も適当なものを下の①～④のうちから一つ選べ。

W：先生は国民が優れた人物を見極める力を身につけさえすれば真に理想の国家が実現すると書かれています。しかし他の個所で先生も述べられているように、古代ギリシアのような時代ならともかく、現代のような多様な価値観が認められている社会では「理想の国家」などというものが成り立たないのではないのでしょうか。

X：先生は真に優れた一人の人間に政治を委ねることが重要であると書かれています。しかし他の個所で先生も述べられているように、一人の人間が国家を統治することは、理想的な国家を実現する可能性がないとは言えないまでも、最悪の国家になってしまう危険性もあるはずで。だから一人の人間に政治を委ねることは危険なのではないのでしょうか。

Y：先生は優れた人物を見極める力を国民は身につけなければならないと書かれています。しかし他の個所で先生も述べられているように、国民一人一人の力など微々たるもので、一人が選挙に行っても、全体から見れば大した影響はないはずで。だから理想の国家を実現するために国民にできることなど何もないのではないのでしょうか。

Z：先生は容姿、家柄、弁舌のみではない優れた人物を選び、政治を委ねることが大切であると書かれています。しかし他の個所で先生も述べられているように、弁舌は政治において重要な能力の一つであるように思います。理想の国家を築くためには、人々を魅了し、自分の理想へと導いていく弁舌の才能は必要不可欠なのではないのでしょうか。

- ① W ② X ③ Y ④ Z

2 次の文章を読み、下の問いに答えよ。

私たちにおなじみの坐禅修行中の姿を表現した赤いダルマ人形、じつは実在の人物をモデルにしている。菩提達磨、禅宗の祖とされる人物である。達磨はインドのある王国の王子として生まれ、出家して修行後中国に渡り布教したと伝えられている。6世紀はじめ頃であるが、ここでは(a) インドで生まれた仏教が中国でどう受容されたかを見てみよう。

中国にやってきた達磨は仏教を厚く信仰し自ら「仏弟子の皇帝」、と称した南朝(b) 梁の武帝と会話を交わしている。しかし、この時の会話はインドと中国において、仏教に何を求めるかについて大きな違いがあったことを示している。

そもそもインドでおこった仏教は成立当時から世俗を離れた生き方を志向するものだった。仏教の祖であるゴータマ自身、王子という地位を捨て苦行の道を選ぶ。初期の経典『ダンマ・パダ』に「戦場に於いて百万人に勝つとも、一の自己に勝つ者こそ實に最上の戦勝者あれ」という言葉があるように、ゴータマは王としての役割よりも真実の自己の探究を選んだのだった。ゴータマは、この(c) 世界は苦しみに満ちているといい、その苦しみの原因を自己にある欲望と根本的な無知に求める。そしてその欲望を断って(d) ありのままの世界を正しく見つめることを説くのである。そのための方法が八正道の実践であったが、そのような実践は世俗に身を置いては難しいため、(e) 世俗を離れた修行者の集団が求められたのだった。インドにおいて人々は自己を克服する方法を示す教えとして仏教を受け入れたのだった。

インドにくらべ早くから中央集権的な国家が成立した中国では、(f) いかに民を治めるかが問題とされた。それに応えたのが(g) 儒教である。孔子の思想を受け継いだ(h) 孟子は、民の生活を成り立たせることこそが政治の目的であるとして、武力によって民衆を支配するのではなく仁の心を持って王が政治を行えば、民は王になびき、自らの徳を發揮させることができるようになる」と主張した。中国では思想を治世の手段であると受け取られる傾向があったのである。

中国に伝わった仏教は(i) 大乘仏教が中心であった。伝来の初期には儒教の教えをもとに父母への孝行を説く教えとして受け取られたり、(j) 老荘思想をもとに理解しようとしたりする動きもあった。次第に国家との結びつきが強くなり、梁の武帝のように王自身の信仰と結びついて鎮護国家の力を持つ教えとして国家の庇護を受け、国家に繁栄をもたらすことが期待された。そして、中国での仏教は唐代になると全盛期を迎え、天台をはじめ禅宗や浄土教といった独自の教説を發展させた。しかし唐代以降、仏教は次第にその力を失い民衆の土着的な信仰の一つとなっていく。

どのような思想であれ宗教であれ、伝播したその土地の風土や人々の精神的あり方にあわせて変化していかざるを得ない。仏教は中国から朝鮮を通じて日本に伝えられ日本の文化に大きな影響を与える。仏教を日本人がどのように受容したかを見ることによって日本人の精神のあり方を明らかにすることができるかもしれない。

問 1 下線部(a)に関連して、仏教誕生当時のインドの状況についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ヴェーダにもとづいてウパニシャッドの哲学が生まれ、そこでは人々がヴァルナによってそれぞれの来世が決定されるという輪廻の思想が展開された。
- ② 輪廻からの解脱のためには宇宙の本体であるアートマンと個人の本体であるブラフマンが実は同一であると体得することが必要であると主張された。
- ③ 伝統的なヴェーダの思想に対抗して、唯物論や道徳否定論、快楽論など自由な思想を展開する人々が現れ、彼らは仏教の側から六師外道とよばれた。

- ④ 自由思想家のひとりヴァルダマーナは人間が行わざるを得ない殺生を肯定しながらも、すべての人間を平等に愛する慈悲を主張してジャイナ教を開いた。

- ⑤ あ 無 い 教を学ぼうとする者として う 慈悲心
⑥ あ 無 い 国を治める者として う 慈悲心

問2 下線部(b)の会話とは次の資料にあげるようなものであったといわれている。この資料と資料についての生徒 X と生徒 Y の会話中の (あ) ~ (う) に入る、文章・語句の組み合わせとして正しいものを、下の①~⑥のうちから一つ選べ。

資料一武帝と達磨との会話

武帝：私は即位して以来、寺を作り経典を写し、僧や教団を援助することを数限りなく行ってきました。どのような功德がありますでしょうか。
達磨：何の功德もありません。
武帝：どうして功德がないとおっしゃるのですか。
達磨：それはただ人間の世界での少しばかりの成果であって、むしろ煩惱の原因を作っているだけです。幻を追うようなもので形があると思っても実体ではないのです。
武帝：では、何が真の功德だと言えるのですか。
達磨：真の知恵は円のようなもので、それは (あ) であり、実体はないのです。この世界では功德は求めることができないのです。
武帝：では、根本的な真理とはいったい何なのですか。
達磨：そんな真理なんてありません。
武帝：今私が話している人は誰なのですか。
達磨：誰か知りません。

生徒 X 王と、達磨との会話というけど何かかみ合っていないね。
生徒 Y そうだね。
生徒 X 王は、自分が寺を作り経典を写し僧や教団を援助したという達磨にそんなもの意味ないといわれているし、なんかこの王様がかわいそうになってきたよ。
生徒 Y この王は自分が (い) として仏教を信仰しているのだけど、達磨はそのような俗世の行為は本来の仏教の教えからすれば意味ないといっているんだと思うよ。
生徒 X じゃ、ブッダの説く真実というのは何なんだろう。僕も聞きたいよ。
生徒 Y 達磨はこの世界のすべてのものには形はあっても実体ではないという真理を (あ) という言葉で示し、実体を追い求めるとき (う) が生まれると言っているんじゃないかな。
生徒 X じゃなぜ王が尋ねたとき真理なんてないと言っているの？
生徒 Y これが真理だと言葉で示したときその言葉で言われたものは実体のようなものになってしまうから、それは本当のものじゃなくなるということじゃないかな。
生徒 X そうか、だから王が私が話している人は誰なのですかと尋ねたとき達磨が知らないと言ったのは、名前で表されたものが実体としてはないんだと言いたかったのか。
生徒 Y 禅宗の祖とされる人だけあるね。

- ① あ 空 い 教を学ぼうとする者として う 執着
② あ 空 い 国を治める者として う 執着
③ あ 空 い 教を学ぼうとする者として う 慈悲心
④ あ 無 い 国を治める者として う 執着

問3 下線部(c)に関して、ブッダは生老病死の4つの苦しみに加えて、さらに4つの苦しみを説いている。その4つの苦しみとして**適当でないもの**を、次の①~④のうちから一つ選べ。

- ① 生き物を殺さなければ生きていけない苦しみ
② 愛するものと別れなければならない苦しみ
③ 求めるものが得られない苦しみ
④ 心身を構成するすべてからくる苦しみ

問4 下線部(d)に関連して、ブッダが説いたこの世界の真実について、次のア~ウの記述の正誤の組合せとして正しいものを、下の①~⑥のうちから一つ選べ。

ア 決して手に入らないにもかかわらず何かを得ようと求めてやまない根源的な欲望が苦しみの原因である。この原因である欲望を認め肯定してしまえば、心は乱れることなく、炎が吹き消されるように苦しみはなくなる。これを涅槃寂靜という。
イ この世界の事物も現象も常に変化しており永遠不変なものはない。生あるものは必ず死を迎え、美しさも必ずいつか失われてしまうように、あらゆるものは生じては消え去っていく。これを諸法無我という。
ウ この世界の事物も現象も、相互に依存し関係し合う中で存在している。花は種子から生じ、また水や土といった生育条件を離れては存在出来ない。自己もまた他者との関係によって成り立つ。まったく何ものにも関係せず存在するというものはない。これを縁起という。

- ① ア 正 イ 正 ウ 誤 ② ア 正 イ 誤 ウ 正
③ ア 正 イ 誤 ウ 誤 ④ ア 誤 イ 正 ウ 正
⑤ ア 誤 イ 正 ウ 誤 ⑥ ア 誤 イ 誤 ウ 正

問5 下線部(e)に関連して、仏教教団はそれぞれの集団を維持するための規則を決めているが、それらの僧が守るべき規則を総称して何というか。最も適当なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。

- ① 経 ② 律 ③ 論 ④ 法

問6 下線部(f)に関連して、次の文章は、諸子百家に位置づけられる人物が著した文章の一部である。この文章の著者の立場を示す言葉を A・B から、この文章の著者が主張した社会をどう治めるべきかについての記述をア・イからそれぞれ選ぶとき、組合せとして正しいものを、下の①~④のうちから一つ選べ。

一人を殺さばこれを不義と謂う。必ず一の死罪あり。若し此の説を以て往かば、十人を殺さば不義を十重す。必ず十の死罪あり。百人を殺さば不義を百重す。必ず百の死罪あり。此くの当きは天下の君子みな知りてこれを非とし、これを不義と謂う。今、大いに不義を為して国を攻めむるに至りては、則ち非とするを知らず、従いてこれを誉めてこれを義と謂う。情に其の不義を知らざるなり。

<思想的立場>

- A 博愛主義 B 法治主義

<主張>

ア 国を強くし、安定した政治を実現するためには、客観的な法に従い、合法をたたえ違法を罰する信賞必罰の政治を行うことが必要である。

イ 敵対しあう関係の中でも利害の対立をあえて停止し愛によって互いに利することが重要であり、侵略戦争をやめ平和を実現することが必要である。

- ① Aーア ② Aーイ ③ Bーア ④ Bーイ

問7 下線部(g)に関連して、孔子に始まる儒者の主張についての記述として適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 孔子は、この社会の習慣的な規範である礼にとらわれるのではなく、孝悌や忠恕といった言葉で表されるような仁を育て上げることによって人は君子となると主張した。
 ② 荀子は、人間の性は悪であるから、世の中に行われている礼儀であってもそれは心の伴わない偽善的なものであるから、それらは一切否定されなければならないと主張した。
 ③ 朱子は、人間の本性は理であるが、気は感情的部分であり善くも悪くもなるので、その気質の性を本来のものに近づけるために常に自らの行為を慎まなければならないと主張した。
 ④ 王陽明は、人間の心には本来的に理は備わらないとはいえ、人間が学習によって身につけることができる判断能力すなわち良知に従って行動すれば道徳的な人間になり得ると主張した。

問8 下線部(h)に関連して、孟子は人の性が善であることを四端説によって説明しているが、その四端説についての記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 他人が脅威などに直面しているとき、その人を思いその恐れや苦しみを取り除こうと心が駆られることが、仁という徳を身につける端緒である。
 ② 自分が為した悪事に対して恥ずかしく思うことと、他人が犯した悪事への非難の気持ち、自らが義という徳を身につける端緒である。
 ③ 他者を信じ、他者の行動を信頼して自らも協力しようという気持ちが起こることが、礼という徳を身につける端緒である。
 ④ 周囲に起こることがが善なるものであるか、あるいは悪であるのかを判断することが、智という徳を身につける端緒である。

問9 下線部(i)に関連して、大乘仏教の考え方についての記述として適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ブッダの教えを分類し整理して教えの意味の解釈や体系化を進め、その教えに基づいて厳しい修行によって阿羅漢になることがめざされた。
 ② それまでの仏教各派の教えは自己の解脱のみを考える利他の教えだとして批判し、ブッダの教えの精神は、すべてのものの解脱をめざす自利行にあると主張した。
 ③ いっさいの現象は心の働きであるという立場に立ち、不殺生、不邪淫、不妄語といった六波羅蜜の実践を通じて他者の救済と自己の悟りを目指した。
 ④ 「衆生病むが故にわれ病む」という言葉に象徴されるように、この世に生きとし生けるすべての救済をめざし修行する菩薩のあり方が理想とされた。

問10 下線部(j)に関連して、次の文章は荘子の思想についてある生徒がまとめたレポートの一部である。この文章中の(あ)～(え)に入る語や文章の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

荘子はその書物の中で、「人はある女性を見て絶世の美女だというが、彼女の姿を見て魚は恐れて逃げるし、鳥は驚き飛び去ってしまう。鹿も彼女を見て一目散に逃げ出す。ではこの四者の中で誰が彼女の本当の姿を知っているといえるだろうか」と述べている。これはギリシャの哲学者が主張したように(あ)という相対主義の主張のようにも見える。しかし荘子は、人間社会の中での価値は相対的なものだという主張にとどまらず、さらにそのような価値を設定すること自体の無意味さをいっているように思える。相対的な価値の対立は無意味だという彼の(い)の主張なのだと思う。だから、そのような相対的な世界の価値観を超越し、老子が主張した万物を創造する根源的存在である(う)と一体化した境地に生きる(え)を理想としたのだと思う。

- | | |
|-------------------------|--------|
| ① あ 人間だけが美の価値を見出すことができる | い 万物斉同 |
| う 天 | え 大丈夫 |
| ② あ 人間だけが美の価値を見出すことができる | い 無為自然 |
| う 天 | え 大丈夫 |
| ③ あ 人間だけが美の価値を見出すことができる | い 万物斉同 |
| う 道 | え 真人 |
| ④ あ 人間だけが美の価値を見出すことができる | い 無為自然 |
| う 道 | え 大丈夫 |
| ⑤ あ 人間が美の基準を決めている | い 万物斉同 |
| う 天 | え 真人 |
| ⑥ あ 人間が美の基準を決めている | い 無為自然 |
| う 天 | え 大丈夫 |
| ⑦ あ 人間が美の基準を決めている | い 万物斉同 |
| う 道 | え 真人 |
| ⑧ あ 人間が美の基準を決めている | い 無為自然 |
| う 道 | え 真人 |

3 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

日本は古来、留学生を通じて海外の進んだ技術や制度を取り入れ、新しい文化や思想を学ぶことで発展し、豊かになってきた。一方、留学途上で様々な危険に遭い、帰らぬ人となった留学生も数知れない。海外に学んだ留学生について振り返り、留学の意義について考えてみよう。

『日本書紀』によれば、日本で初めて留学したのは司馬嶋しりまじまという女性である。11歳で出家し善信尼と名乗った彼女は、15歳のとき百済に渡り、戒律を学んで受戒し、帰国後は尼僧の育成に努めた。これより後に、(a)聖徳太子によって遣隋使が派遣され、遣唐使停止までに多くの留学生や留学僧が中国に渡り、政治制度や優れた学問、文化を学び伝えた。当時は航海術も造船技術も未熟だったため、渡航は命懸けであった。たとえば最澄や(b)空海が留学した際、遣唐使は4隻の船で出航したが、中国に辿り着いたのは彼らが乗っていた2隻だけだった。危険は海難だけではない。彼らと同じ遣唐使団で入唐した法相宗りょうせんの靈仙は、唐で研鑽を積み、皇帝から三蔵法師の称号まで授けられた僧であったのに、彼の地で毒殺されてしまった。留学は鎌倉時代になっても危険を伴うものだったが、栄西は、2度も入宋した上、インドをも目指したという。その栄西に影響を受けた(c)道元も、入宋して仏教を学んだ。命の危険を顧みず、彼らを留学へと駆り立てたものは何だったのだろうか。

もちろん留学の目的は、仏教に限らない。室町時代には、禅僧の桂庵玄樹が副使として遣明使に随行し、明で7年間朱子学を学び、帰国して薩南学派の祖となった。明に向かったその同じ船には、後に(d)日本の水墨画を大成した雪舟も乗っていた。留学生を通して、海外の優れた仏教や儒教、美術などが日本に伝えられ、日本文化に大きな影響を与えてきた。

江戸時代には、鎖国政策が行われて海外への留学は難しくなったが、かえってそのために、(e)日本独特の思想が創出されたともいえる。しかしペリー来航後、事態は一変した。西洋の学問や技術を導入するため、幕府は、西周や津田真道をオランダへ留学させた。長州藩や薩摩藩などは、幕府に内密でそれぞれ伊藤博文や(f)森有礼らをイギリスへ留学させている。岩倉使節団には、約50人もの留学生が同行した。幕末から明治期にかけての留学目的は、富国強兵や殖産興業など、主に国家の独立と発展のためであった。その大きな流れに翻弄された者もいる。自分の意志とは関係なく国費留学生に選ばれロンドンに行った(g)夏目漱石は留学先で神経を病み、非常に悩み苦しんだが、やがて自らの道を見いだすに至った。

幕末以降の留学先は、欧米が主流となっている。中江兆民はフランスに留学して(h)民主共和の思想を学び、新渡戸稲造や内村鑑三はアメリカに留学して(i)キリスト教への信仰を深めた。吉野作造はドイツやアメリカなどでデモクラシーを学び、(j)和辻哲郎はドイツ留学中にハイデガーの著作に示唆を受けた。近代日本の思想は、欧米への留学を抜きにしては語れない。

こうしてみると、古代より現代に至るまで、日本の思想や文化は、留学生を介して世界との結びつきによって育まれてきたことがわかる。見知らぬ国で孤独と戦い、異文化の中で苦しみもがきながらも自分の殻を打ち破った留学生たちの学びは、留学生自身の人生と、国の文化や学問の双方を、深く豊かに成長させてきたといえるだろう。

問1 下線部(a)に関して、聖徳太子についての記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 太子が制定したとされる憲法十七条は、豪族たちに役人としての心得を示したもので、その内容には仏教の影響がみられるが、儒教の思想は含まれていない。
- ② 憲法十七条において太子は、仏の目からみれば人はみな欲望にとらわれた無知な存在であるとし、大切なことは独断によらず、よく議論して決めるようにと説いている。
- ③ 仏教を深く学び僧侶の資格ももっていた太子は、金光明経・涅槃経・維摩経の注釈で

ある『三経義疏』を著し、それを宮中で講じたと伝えられている。

- ④ 太子は「世間は虚仮なり、唯仏のみはれ神なり」ということばを遺したとされるが、これはこの世は空しく仮のものであり、仏のみが真の神であるという信念を表している。

問2 下線部(b)に関連して、密教や真言宗についての記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 密教とは、釈迦が生きている間には伝えることのできなかった秘密の教えという意味で、釈迦が入滅後に大日如来となって示した深遠な教えのことである。
- ② 空海は高野山に金剛峰寺を建て、唐で学んだ密教をもとに真言宗を開き、戒律の実践につとめ坐禅の修行法も取り入れて、大乘戒壇の設立をめざした。
- ③ 真言宗では、手に印契を結び、口に真言を唱え、心に大日如来を思い描く三密の行によって大日如来と一体化することで、この身のままで成仏できると説かれる。
- ④ 神が衆生を救うために、仮に仏や菩薩の姿となってあらわれたとする思想として、アマテラスの本体は大日如来であるという考えがある。

問3 下線部(c)に関連して、次の資料は道元が宋に留学していた時の話を『正法眼蔵随聞記』から引用したものである。この内容の説明として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

わたしが宋にいた時のこと、坐禅の道場で古人の語録を読んでみた。その時、ある、四川省出身の僧で道心あついであったが、この人がわたしにたずねて言った。「語録を見て何の役に立つのか。」

わたしは言った。「くにに帰って人を導くためだ。」

その僧が言った。「それが何の役に立つのか。」

わたしは言った。「衆生に利益を与えるためである。」

僧はさらに言った。「結局のところ何の役に立つのか。」と。

わたしはあとで、この問いの道理を考えたが、語録や公案などを読んで古人の行ないの跡をも知り、あるいは迷っている人のためにその内容を説いて聞かせるなどのことは、みなこれは、自分の修行の上でも、他人を導く上でも、いらぬことである。ただひたすら坐禅して一生参学の大事を明らめ、仏法に説くところの心の道理を明らかにしたなら、そのあとは、一文字も知らなくても、人に教え示すのに使い尽くせないほどである。

(水野弥穂子訳『正法眼蔵随聞記』より)

- ① 四川省出身の僧との対話によって道元が学んだことは、「何の役に立つのか」と考えること自体が無用なことであり、人を導くためなどと考えず、自分のために修行することが仏法の道理にかなっているということに気が付いた。
- ② 四川省出身の僧との対話によって道元が学んだことは、「くにに帰って人を導こう」と考えること自体が無用なことであり、迷う心や坐禅の修行などをすべて捨てることが仏法の道理にかなっているということに気が付いた。
- ③ 道元は四川省出身の僧との対話を通じて、昔の人の語録や公案を読んだりその内容を人に説いたりすることは不必要であり、坐禅によって心がどういうものであるかを自ら体得し明らかにすることによってこそ、人を導くことができるのだと悟った。

- ④ 道元は四川省出身の僧との対話を通じて、なんのために坐禅をしたり仏道修行をするのかと考えたりすることは必要ではなく、迷っている人のためにただひたすら生涯学ぶ姿勢を示し続けることによってこそ、人を導くことができるのだと悟った。

問4 下線部(d)に関連して、次の高校生の会話文中の(あ)～(う)に入れる語句・記述の組み合わせとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。



A: この絵は、水墨画を大成した(あ)の僧雪舟が描いた、「天橋立図」かな。
 B: そう。閑寂で過剰な装飾がない点に(あ)の精神が表れているようで、好きなんだ。クラスに留学生が来たので、日本の伝統文化を何か紹介しようと思ってこの絵を選んでみたのだけど、何をどう説明したらいいのかと、悩んでいるところ。
 A: 絵の説明をする前に、まず留学生に率直な感想を聞いてみたら?
 B: そうだね! 留学生はこの絵を見てどう思うんだろう。
 A: よく見ると、墨の濃淡だけで描かれているのに、すべてが表現されている気がするなあ。
 B: 不思議だね。さて、問題はどう説明するか、だな。たとえば、「枯淡で幽玄な画風」ってどう言えば伝わると思う? 特に「幽玄」という言葉の説明が難しいなあ。
 A: うーん。(い)という説明でどうだろう。
 B: いいね! でもその微妙なニュアンスは、言葉では伝えきれない気がする。
 A: 言葉によらず体験により心で悟るしかない・・・つまり(あ)でいう(う)だね。

- | | | |
|---------|-------------------------|--------|
| ① あ 禅宗 | い 余韻を豊かに感じさせる、神秘的で奥深い趣き | う 不立文字 |
| ② あ 禅宗 | い 素朴で力強く、壮麗で雄々しい気風 | う 観想念仏 |
| ③ あ 浄土宗 | い 余韻を豊かに感じさせる、神秘的で奥深い趣き | う 観想念仏 |
| ④ あ 浄土宗 | い 素朴で力強く、壮麗で雄々しい気風 | う 不立文字 |

問5 下線部(e)に関連して、江戸時代には、日本独自の儒学とされる古学が生まれた。次のア～ウは、古学派の思想家についての記述である。その正誤の組み合わせとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

ア 山鹿素行は、宇宙をつらぬく普遍的原理である孝を道德の根源として重視し、人間関係において君は尊く臣は卑しいのであるから、武士は三民の指導者としての役割を自覚し、孝の実践に励まなければならないと説いた。

イ 伊藤仁斎は、形式にとらわれ他者への思いやりに欠ける朱子学に不満をもち、道理にもとづき物事を判断しようとする漢意を捨て、生まれつきの真心のままに、悲しむべきことを悲しみ、喜ぶべきことを喜ぶ心のはたらきである誠に従って生きるべきだと唱えた。
 ウ 荻生徂徠は、道とは個人の道德ではなく、中国古代の堯や舜などの聖人が、国をおさめ天下を安んずるために作った礼楽刑政の道であり、そのような道のあり方を明らかにするために、六経を古代のことばのまま読み解くべきであると主張した。

- | | | | | | |
|-------|-----|-----|-------|-----|-----|
| ① ア 正 | イ 正 | ウ 誤 | ② ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ③ ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 | ④ ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑤ ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 | ⑥ ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |

問6 下線部(f)に関連して、森有礼を中心に結成された明六社に加わった啓蒙思想家の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 西周は、相互の愛情と契約にもとづく男女同権の一夫一婦制を唱え、自らもそれを実践し、婚姻契約を結んで結婚した。
- ② 中村正直は、J.S.ミルの『自由論』を翻訳したり、スマイルズの『自助論』を翻訳したりするなどして、功利主義や自由主義を紹介した。
- ③ 西村茂樹は、儒教を基本とする国民道徳を説き、「アジアは一つ」との立場から、東洋において日本は指導的役割を果たすべきだと主張した。
- ④ 加藤弘之は、西洋哲学や論理学などを日本に導入し、朱子学の素養を生かして「理性」や「哲学」など多くの哲学用語を考案した。

問7 下線部(g)に関連して、次の文章は夏目漱石について述べたものである。文中の空欄(あ)～(う)に入る語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

英文学研究のためにイギリスに留学した夏目漱石は、欧米の学問の受け売りをするのではなく、他に流されず自分の考え信ずるところに従う(あ)を求めようになった。そして、日本の近代化は(い)であり、日本人の自己確立が不十分なままの日本の開化を「皮相上滑りの開化」と呼んで批判した。
 しかし(あ)に根差す個人主義の実現は容易なものではなく、エゴイズムの克服に苦しんだ漱石は、晩年は(う)の境地を求めようになったとされる。

- | | | |
|----------|---------|--------|
| ① あ 自己本位 | い 内発的開化 | う 則天去私 |
| ② あ 自己本位 | い 内発的開化 | う 諦念 |
| ③ あ 自己本位 | い 外発的開化 | う 則天去私 |
| ④ あ 自己本位 | い 外発的開化 | う 諦念 |
| ⑤ あ 他人本位 | い 内発的開化 | う 則天去私 |
| ⑥ あ 他人本位 | い 内発的開化 | う 諦念 |
| ⑦ あ 他人本位 | い 外発的開化 | う 則天去私 |
| ⑧ あ 他人本位 | い 外発的開化 | う 諦念 |

問8 下線部(h)に関して、自由民権運動に関連のある思想家についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 『学問のすゝめ』を著し天賦人權論を唱えた福沢諭吉は、官民調和の立場から一貫して自由民権運動を積極的に推進し、独立自尊の精神を説いた。
- ② 急進的な民権思想の立場から中江兆民は『三酔人経綸問答』を著し、人民がみずから「恢復的民権」を勝ち取るために、団結して革命を起こすべきだと呼びかけた。
- ③ 「東洋大日本国国憲按」を起草した植木枝盛は、キリスト教人道主義の立場から、政府が人民の権利を侵害する場合、人民は抵抗し政府を変革する権利があると唱えた。
- ④ 自由民権運動に加わったが離脱した北村透谷は文学に転向し、浪漫主義の立場から精神的な内部生命の要求を「想世界」で実現することを主張した。

問9 下線部(i)に関連して、近代日本のキリスト者についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 新渡戸稲造は、若いころから「太平洋の橋とならん」という志をもち、キリスト教信仰を土台として国境を越えた人間愛を提唱した。そして、武士道とキリスト教には相通じるものがあると考え、英文で『武士道』を著し、日本人の精神を世界に紹介した。
- ② 新渡戸稲造は、聖書に感銘を受け、幕末に国禁を犯してアメリカに渡って大学に進み、キリスト教精神による徳育と学問の重要性を実感した。帰国後は同志社英学校を創立し、キリスト教を基本とした自由自活の精神をもった教育を行った。
- ③ 内村鑑三はアメリカに留学してキリスト教信仰を深め、帰国後教職に就いた。しかし教育勅語の奉読式において、天皇制を否定する意図から天皇の署名への最敬礼を行わなかったために、不敬であると非難され、大逆罪で起訴された。
- ④ 内村鑑三は、日本人による伝道者を養成するために、東京神学社を設立した。キリスト教を反国体的な宗教とみなし排撃する国家主義的な風潮に対して、信教の自由や政教分離の立場から反論した。

問10 下線部(j)に関連して、次のA～Cは、倫理の授業で和辻哲郎について学んだ生徒たちの発言である。和辻哲郎の思想内容を正しく理解しているものの組み合わせとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- A 和辻哲郎は、日本文化の重層性を指摘しました。これは、外来思想が入ってきても、日本に古くからある文化を否定せず受け容れることで層をなして複数の文化が共存していく様子を表したものです。海外では、文化をどう受容してきたのか調べたくなりました。
- B 和辻哲郎は、人間について「間柄的存在」という観点から考察しました。これは、「われ思う、ゆえにわれあり」という言葉に代表される「われ」を中心とする西洋近代の思想に対し、「他者」や「他者との関係性」に目を向ける視点をもつものだと思います。
- C 和辻哲郎は、坐禅などの体験を通して、主観と客観が区別される以前の主客未分の純粹経験が、唯一の實在だと唱えました。これは、部活での試合中に「ああしよう、こうしよう」と考えずに無我夢中で戦っているときのことだろうと思いました。

- ① A ② B ③ C ④ A・B ⑤ A・C ⑥ B・C

4 次の文章を読み、以下の問いに答えよ。

近代ヨーロッパの思想において、個人の存在は自明のものだとされている。例えば、(a) ホッブズはその著書のなかで、個人を圧倒する強大な国家が必要であると論じてはいる。しかしながら、彼自身は、個人をとるに足りないものと考えていたわけではない。他の社会契約論者たちと同様に、ホッブズは社会の成立以前に、独立した諸個人が存在することを議論の前提としているのであって、その意味においては、むしろ個人というものを無視はしていないと言うこともできる。

しかし、社会集団から独立して自分自身の意志を持つ個人、言い換えると「私」といった自覚を持つ「個人」という存在の成立は、まさに近代ヨーロッパの成立と時期を同じくしている。もちろん、生物学的な意味での個体は、人類の生誕とともに存在はしている。しかし、魚群の中の一個体が決して個性を持たないのと同様に、文明的に未開の段階にある原始共同社会の人間は、「個体」ではあっても、「個人」では決してなかった。近代的な個人の典型は、たとえば(b) デカルトの「考える私」、あるいは(c) カントが理想とした人間像である。こうした近代的な個人は、(d) ルネサンスや宗教改革などを経て、歴史的に形成されてきたのである。

ところで、個人は歴史的に社会から派生したものであるだけでなく、常に社会、もしくは共同体に依存してもいる。ロビンソン=クルソーのような自律的な「個人」像は、近代的個人についてのひとつのイメージなのであって、(e) 現実に存在する人間のあり方を示すものではない。現実の人間は、つねに(f) マルクスが生産関係という言葉で表現したような他者との関係のうちに生きており、他者の作った生産物を用い、他者の作った食物を食べている。人類というものは、いつの時代においても他者に依存してきたし、その依存の内容は、綿々と現代にも続き、今日ますます高まっているのである。

このように見てみると、個人というものは、社会における歯車のようなものでしかないようにも思われてくる。だが、個人が社会に優越するものでないとしても、そのことによって、ただちに個人という概念が意義を失うわけではない。個人という概念は、「他者」から人権という概念を成立させる前提となったのであり、近代社会を思想的に支える基礎概念なのである。最近では、(g) 個人の権利が優先されすぎているといった論調を見受けることも少なくないが、(h) 個人や人権といった概念が社会で果たしてきた歴史的な役割を考えるならば、(i) 今日のよ

問1 下線部(a)ホッブズの著書名とそれに関連する資料との組合せとして、正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

<著書名>

- A『パンセ』 B『リヴァイアサン』 C『市民政府二論』 D『社会契約論』

<資料>

ア



イ



- ① A-ア ② A-イ ③ B-ア ④ B-イ
⑤ C-ア ⑥ C-イ ⑦ D-ア ⑧ D-イ

問2 下線部(b)に関して、次の文章はデカルトの思想について述べたものである。文章中の(あ)～(う)に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

デカルトは『(あ)』の中で、心と物体がそれぞれ(い)という互いに異なる属性を持つ独立した存在であると考えた。実体として心と区別されるべき物体のあり方は、因果律に従って動く機械として自然現象が説明される機械論的自然観に重なり合う。他方、デカルトは(う)として自由意志を認め、身体から働きを受けた心の受動的状態である情念がこれにより制御されると考えた。こうして、心と物体はどのような関係にあるかが問われるようになった。

- | | | |
|----------|---------|---------|
| ① あ 哲学書簡 | い 感覚と質量 | う 高邁の精神 |
| ② あ 哲学書簡 | い 感覚と質量 | う 繊細の精神 |
| ③ あ 哲学書簡 | い 思惟と延長 | う 高邁の精神 |
| ④ あ 哲学書簡 | い 思惟と延長 | う 繊細の精神 |
| ⑤ あ 省 察 | い 感覚と質量 | う 高邁の精神 |
| ⑥ あ 省 察 | い 感覚と質量 | う 繊細の精神 |
| ⑦ あ 省 察 | い 思惟と延長 | う 高邁の精神 |
| ⑧ あ 省 察 | い 思惟と延長 | う 繊細の精神 |

問3 下線部(c)カントが説いた自由の内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① その目的が何であれ、自らの意志に基づいて行為するにあたり、外的拘束や障害が全くないことこそが自由である。
② あらかじめ本質を定められていない人間は、自己のあり方を自ら選択して生きるほかはなく、そこに個人としての自由がある。
③ 理性に従い、打算や結果の考慮を退けて立てた道徳的法則に自ら進んで従うことが自律であり、そこに自由がある。
④ 自由は歴史において徐々に実現されていくものであり、家族と市民社会を止揚し、国家において完成される。

問4 下線部(d)ルネサンス期の芸術家であるミケランジェロについて、説明A～Cと作品ア～ウの組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

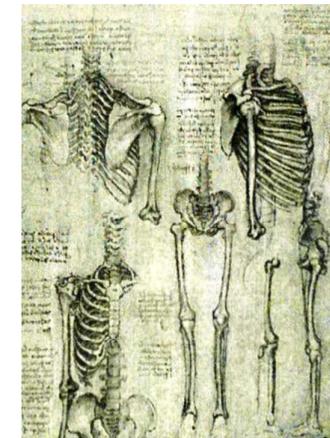
<説明>

- A ルネサンスを代表する画家の一人であり、若年期に教皇ユリウス2世に招かれ、ローマに赴いてヴァチカン宮殿の壁画作成に着手した。また、一連の母子像も多く手がけた。
B ルネサンスを代表する万能人の一人であり、建築・土木工学・医学などにも通じており、遠近法などを用いて絵画を作成した。自然科学の多くの領域に膨大な手稿も残した。
C ルネサンスを代表する万能人の一人であり、彫刻家・画家・建築家でもある。システリーナ礼拝堂の壁画作成や、サンピエトロ大聖堂の設計や工事にも関与した。

<作品> ア



イ



ウ



- ① A-ア ② A-ウ ③ B-イ ④ B-ウ ⑤ C-イ ⑥ C-ウ

問5 下線部(e)に関連して、19～20世紀にかけての実存主義の思想家が述べた内容として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 人間は主體的真理を求め、絶望を繰り返しながら、自身の罪深さに対する不安とおそれのうちに、単独者として神の前に立って生きるものである。
② 人間は自己を天使でも獣でもなく、虚無と無限の中間者であることを自覚して、神の愛のもとに自己の有限性を自覚して生きるものである。

- ③ 人間は世界内にあって、多くの物や道具、他者と係わり合い、それらへの関心と配慮の中を生きているものである。
- ④ 人間は根源的に自由な存在であり、たえず未来へ向けて自己を投げ出し、新たな自己を創造しながら生きるものである。

問6 下線部(f)に関連して、次のア～ウは、マルクス主義など社会主義思想の影響を受けて活動した人々についての記述である。その正誤の組合せとして正しいものを下の①～⑥のうちから一つ選べ。

ア ベルンシュタインは議会の力による漸進的な社会変革を否定して武力行使による革命実現を目指し、修正マルクス主義と呼ばれた。

イ ロシア革命を指導したレーニンは三民主義を掲げて政権を握り、プロレタリア独裁による世界初の社会主義国家を樹立した。

ウ ウェップ夫妻はイギリスにおいてフェビアン協会を設立し、同国の労働運動や社会主義的政治改革に影響を与えた。

- ① ア 正 イ 正 ウ 誤 ② ア 正 イ 誤 ウ 正
- ③ ア 正 イ 誤 ウ 誤 ④ ア 誤 イ 正 ウ 正
- ⑤ ア 誤 イ 正 ウ 誤 ⑥ ア 誤 イ 誤 ウ 正

問7 下線部(g)に関連して、人間の欲望を肯定した思想に功利主義がある。その思想家の一人である J.S.ミルに関する記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 他者の幸福を願う利他心を重視して、「人にしてもらいたいことを人にしなさい」という黄金律を功利主義道徳の理想と考えた。
- ② 家庭内における男女の人間関係が平等で、共感を伴うものであるべきだと主張し、女性の参政権を訴え、民主的改革に尽力した。
- ③ 人間の精神的快樂の重要性を認めた質的功利主義を展開し、制裁については道徳的制裁をはじめ、外的制裁の必要性を論じた。
- ④ たゞえ周囲から見て愚かに見えることでも、他者に危害を及ぼさないなら自由に行う愚行権を認めるべきだと主張した。

問8 下線部(h)に関し、知識や観念の妥当性を考察したプラグマティズムに関する記述として、最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① プラグマティズムは、観念を行為との関連の中でとらえ、現実在即した実践的な知性の活動を目指して、イギリスで生まれた思想運動である。
- ② パースはプラグマティズムを創始し、倫理的・宗教的な分野においても、その結果が有用な限りにおいては真理であると考えた。
- ③ ジェームズはその著書『哲学の改造』において、観念の源泉は創造的知性にあり、観念の持つ意味は、創造的知性を通して明らかになると唱えた。
- ④ デューイは、人間の思考や知性はよりよい生活を営むための道具だと考え、「なすことによって学ぶ」経験主義教育の有効性を主張した。

問9 下線部(i)に関連して、20世紀における戦争や全体主義などの問題に取り組んだ思想家について述べた次の文章を読み、(あ)～(う)に入れる語句や人物名の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

フランクフルト学派のフロムは、ファシズムの蛮行について分析し、それを支持した大衆の特徴として(あ)があったことを明らかにした。その第二世代に属するハーバーマスは、権力や経済的なシステムによって支配された社会を克服するための(い)を求めた。また(う)は、全体主義の危機を避けるために、言葉による相互的な「活動」によって、公共的な言論空間を確保していくことを主張した。

- ① あ 権威主義的パーソナリティ い 対話的理性 う アーレント
- ② あ 権威主義的パーソナリティ い 対話的理性 う レヴィナス
- ③ あ 権威主義的パーソナリティ い 力への意志 う アーレント
- ④ あ 権威主義的パーソナリティ い 力への意志 う レヴィナス
- ⑤ あ 集合的無意識 い 対話的理性 う アーレント
- ⑥ あ 集合的無意識 い 対話的理性 う レヴィナス
- ⑦ あ 集合的無意識 い 力への意志 う アーレント
- ⑧ あ 集合的無意識 い 力への意志 う レヴィナス

問10 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 社会とは独立した個人が結合することによって形成されたものだという考え方があるが、これは歴史的にも論理的にも誤っている。実際には社会の方が根源的であり、個人という概念を見直すことは、さほど重要ではない。
- ② 個人という概念は、通常考えられているほど確固とした基盤を持つものではなく、実際には社会の中において、他者との関係の中で生きていく存在である。だが、そのような存在に尊厳を認めた点に近代の意義があり、これを継承していくべきである。
- ③ 個人という概念は西洋近代という人類史上の特定の時代に誕生したものであり、それを過度に普遍化することは戒めるべきである。個人が他者や社会によって生かされている存在である、と自覚することが求められている。
- ④ 個人を尊重するということは、個人の権利を無制限に認めることではない。社会の中で個人の価値が本当に発揮されるためには、個人という概念には、様々な限界が存在することをはっきりと自覚することがむしろ必要である。

5 次の文章は、高校の倫理の授業の後の、T先生と生徒Sのやりとりである。文章を読み、下の問いに答えよ。

S：T先生、(a)今日の授業のフロイトとユングの話、特に夢分析のところがとても興味深かったです。実は僕、最近変な夢ばかり見て、あまりよく眠れないんです。

T：確かに最近眠そうにしていることが多かったけど、今日の授業はすごく集中して聞いていましたね。例えばどんな夢を見るんですか？

S：毎回同じ夢で、同じ年くらいの女の子が出てくるんです。現実には会ったことがないんですけど、なんだか前から知っていたような気がするんです。その女の子と一緒に散歩していたら、どんどんあたりが暗くなってきて、森の中のようなところにたどり着くんです。

T：その人はもしかしたら今日の授業で説明した(あ)かもしれないですね。

S：あの女の子は僕の心の中にいる理想の女性ということですか。

T：初めて会ったという感じがしないのは、その女の子もある意味で君自身の一部だからです。ところで夢の続きですけど、森の中で何が起こるんですか？

S：森の中で、道が二股に分かれていて、右に行くか、左に行くかという場面になるんです。なぜかどちらにもあまり行きたくなくて立ち止まるんですが…

T：まさに(b)前回の授業で扱った葛藤ですね。

S：そうです、そうやって葛藤していると僕の隣の女の子が…

T：左に行こうって言うのでしょうか？

S：え、何で分かったんですか？そうなんです、左の道へ進むように言われて、その女の子に手を引かれてさらに暗い奥へと連れて行かれるんです。とても怖いんですけど。

T：ユングによれば左というのは一般的に(い)の象徴で、(う)にとっては(い)の世界は暗闇そのものですからね。授業で説明したように、精神分析学ではそもそも夢自体が(い)からのメッセージなんですけど、(う)が受け取るのはなかなか難しいんです。そのため、(c)目が覚めたら夢を見たこと自体を忘れてしまうこともよくあります。それで、その夢の続きはどうなるのですか？

S：左の道を奥へと進んでいるうちに、気がつくとう女の子がいなくなっていて、目の前に老人が立っているんです。本当に昔話に出てくるようなお爺さんなんですけど。その人が僕に何か言おうとした瞬間にパッと目が覚めてしまうというのがいつものパターンです。

T：その老人も(え)のひとつかもしれませんね。世界中の神話や民話に共通して登場するイメージのことで、老人の場合は知恵を象徴していることが多いのです。君に何か大事なことを言いたかったのかもしれませんが、それにしても、そんな夢を繰り返し見るなんて、最近何かありましたか？

S：…実は、つきあっている人がいるんですけど、最近うまくいってないんです。最初は理想の人だと思ったんですけど、1年経って、なんかイメージと違って来たといいますか…

T：恋愛の悩みがあったんですね。(d)青年期における恋愛は、(e)自己中心性から脱却して人間として成長していくために重要な意味を持ちます。どうやら君たち二人の関係が、恋という感情から真の愛へと至れるかどうかを試されているようですね。

S：恋と愛とは違うのですか。

T：例えば(f)フロムは、『愛するということ』という著書の中で、「誰かを愛するというのはたんなる激しい感情ではない。それは決意であり、決断であり、約束である。」と言っています。彼によれば、愛には感情ではなく意志の力が必要なのです。また彼は、「愛とは、愛する者の生命と成長を積極的に気にかけることである」とも言っています。そう考えると、恋愛は、(g)お互いの存在に関心を持ち、意志の力で人格全体を受容し合う愛の関係に向かって進んでいくプロセスだといえるかもしれませんね。

S：そうか…。つきあっている彼女は僕のイメージ通りではなかったかもしれないけど、これからも一緒にいたいから、自分の意志で努力していきたいと思います。

T：そうですね。心理学的にいうと一般に男性は女性原理を生きにくく、心の中で理想の女性のイメージをつくって現実の女性に投影することで恋に落ちるとされているわけですけど、恋愛の過程で投影を自覚し、男性自身の女性原理を活性化して、人間として成熟していくことが大切です。

S：なるほど。僕の心の女性原理の部分は、現実の彼女や夢の中の(ア)にも助けをもらいながら育てていけばいいんですね。

T：よく気づきましたね。結局人生には男女を問わず男性原理と女性原理の両方が必要です。特に現代社会では(h)女性の社会進出が進み、男性が育児や家事に参加することが求められているわけですからね。男性原理と女性原理のあり方があらためて問い直されている時代でもあります。性別にこだわらず、他者との関わりの中でひとりひとりが人間的に成熟していけるといいですね。今夜はぐっすり眠れると思いますよ。

問1 下線部(a)について、今回の授業では最後に、フロイトとユングの思想の共通点と相違点について各グループでまとめて発表する課題が出された。A～Dのグループのうち、発表の内容が正しいものを次の①～④から一つ選べ。

- ① グループAは、フロイトとユングはともに夢分析を重視しているが、特にユングはフロイトと違って神話や民話を夢分析に積極的に活用したことを挙げ、オイディプス王の物語からエディプス・コンプレックスを見出した例を紹介した。
- ② グループBは、フロイトとユングの思想の共通点として、心の病は無意識の領域の探索によって回復するとしている点を指摘した上で、相違点として、ユングは過去の親子関係やリビドーを重視するのに対して、フロイトはそれらに囚われない点を挙げた。
- ③ グループCは、フロイトとユングの思想の共通点として、無意識の領域を研究対象にしている点があるが、ユングはフロイトと違い、無意識の領域を人類全体に共通する集合的無意識の領域まで拡大して想定していると指摘した。
- ④ グループDは、フロイトとユングはともに人間が合理的に行動しているとは限らないという考えを持っているが、特にユングは人間の不合理性の要素として幼児の性欲や、死への衝動の存在を強調しており、その点がフロイトとは異なることを述べた。

問2 空欄(あ)～(え)に入る語の組み合わせとして正しいものを、次の①～⑥から一つ選べ。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|-----|---|-----|---|--------|
| ① | あ | アニムス | い | 意識 | う | 無意識 | え | アーキタイプ |
| ② | あ | アニマ | い | 意識 | う | 無意識 | え | ペルソナ |
| ③ | あ | アニムス | い | 無意識 | う | 意識 | え | アーキタイプ |
| ④ | あ | アニマ | い | 無意識 | う | 意識 | え | アーキタイプ |
| ⑤ | あ | アニムス | い | 意識 | う | 無意識 | え | ペルソナ |
| ⑥ | あ | アニマ | い | 無意識 | う | 意識 | え | ペルソナ |

問3 下線部(b)について、生徒たちは前回の授業で葛藤には下記のように3つの型があることを学び、その知識を活用して身近な事例に当てはめて分類する課題に取り組んだ。生徒A～Fのうち、適切な事例を挙げて正しく分類している生徒の組み合わせとして正しいものを、下の①～⑥から一つ選べ。

<葛藤の3つの型>

- 接近—接近型 望ましいことが複数あって、すべてを選ぶことができない。
- 回避—回避型 避けたいことが複数あって、すべてを避けられない。
- 接近—回避型 1つの対象に望むことと避けたいことが並存する。

生徒A 試験勉強するのは嫌だが、試験で落第点を取るのも嫌だという事例を考え、回避—回避型に分類した。

生徒B 食堂に行ったら食べたい定食が2つあったという事例を考え、接近—接近型に分類した。

生徒C 憧れの先輩がいるサッカー部に入って頑張りたいが、練習が厳しいのでためらっている事例を考え、接近—回避型に分類した。

生徒D 早く風邪を治したいが、辛い風邪薬は飲みたくないという事例を考え、回避—回避型に分類した。

生徒E 生放送で見たいテレビ番組が同じ時間帯に2つあるという事例を考え、接近—接近型に分類した。

生徒F 毎日の授業を大切にしたいが、野球部で活躍もしたいので放課後に勉強するのは避けたいという事例を考え、接近—回避型に分類した。

- ① 生徒B、生徒C、生徒D、生徒F
- ② 生徒A、生徒B、生徒C、生徒E
- ③ 生徒A、生徒E、生徒F
- ④ 生徒B、生徒C、生徒F
- ⑤ 生徒A、生徒D
- ⑥ 生徒D、生徒E

問4 下線部(c)について、これはフロイトの解釈によると防衛機制のひとつである。以下の防衛機制の事例のうち同じ種類の防衛機制が働いているといえるものを次の①～⑥のうちから一つ選べ。

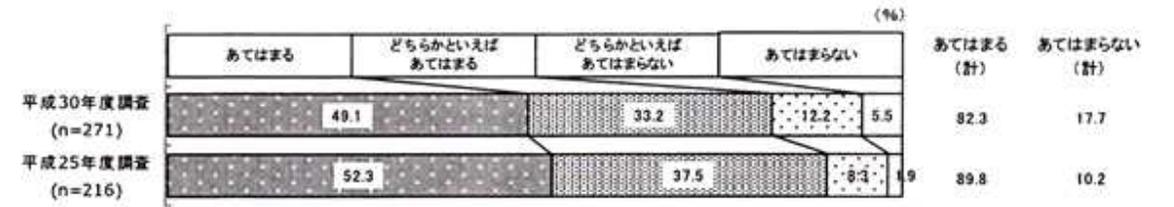
- ① ある生徒は、本当はそのクラスメートに好意を持っているのに、意地悪なことを言ったり、無関心を装って冷たい態度を取ったりしていた。
- ② ある生徒は、恋人ができない寂しさや悔しさを、ボランティア活動に打ち込むことで紛らわすうちに、活動ぶりが評価されて学校で表彰されることになった。
- ③ ある生徒は、中間考査で良い成績を取れなかったのは、問題が難しすぎたからであり、自分の努力不足のせいではないと考えた。
- ④ ある生徒は、普段は何ともないのに部活動の時間が近づくと体調を崩し、しばしば部活動を休むようになった。
- ⑤ ある生徒は、生徒会の選挙で落選して大変なショックを受けたのに、翌日から選挙前とまったく変わらない様子で過ごしていた。
- ⑥ ある生徒は、大学受験がうまく行かず、自室のベッドに一日中寝転んで、幼い頃大好きだった絵本を眺めてばかりいた。

問5 下線部(d)について、生徒Gは、現代の日本の青年の恋愛観や結婚観を探究のテーマに選び、内閣府の調査に基づいて現状を把握することにした。下記の調査データに基づく分析として最も適切なものはどれか、下の①～④からひとつ選べ。

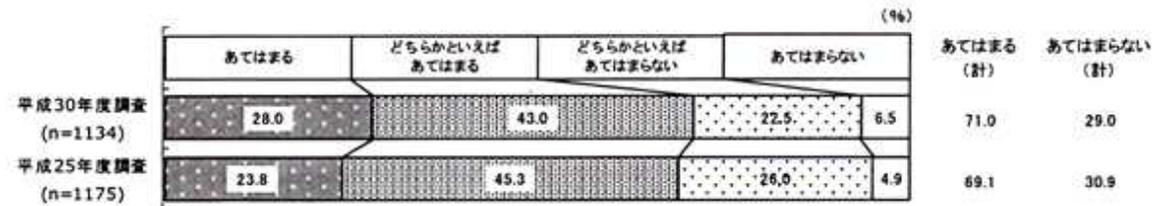
調査名 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（内閣府、令和元年6月）
対象者 満13歳から満29歳までの男女、1000名程度

あなたは、どんなときに充実していると感じますか。

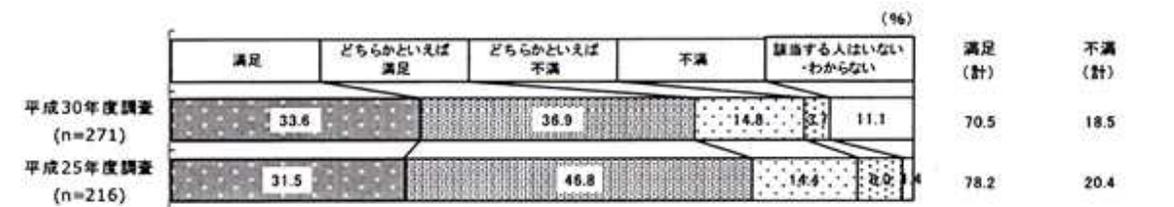
恋人がいるとき ※事実婚、離死別、未婚で恋人がいる人が対象



他人にわずらわされず、一人でいるとき



あなたは、恋人との関係に満足を感じていますか。



あなたは、結婚（事実婚を含む）についてどうお考えですか。



- ① 恋人がいるときに充実を感じている者の割合が常に80%を上回っているため、現代の青年は恋愛に前向きで、恋人への満足度も高くなってきている。
- ② 他人にわずらわされず、一人でいるときに充実を感じる者の割合の方が、恋人がいるときに充実を感じる者の割合よりも大きく、ここ数年では増加している。
- ③ 恋人との関係に満足を感じているという者の割合は減少傾向にあるものの、結婚した方が良いと考える者は過半数を超えており、青年の結婚願望は強まっている。
- ④ 恋人がいるときに充実を感じている者の割合や、結婚した方が良いと考える者の割合が減少傾向にあり、恋愛や結婚に肯定的でない青年が増えつつある。

問6 下線部(e)について、子どもの発達は、自己中心的な視点から脱却し、他人の視点を認めて物事を客観的に捉えられるように段階的に進んでいくと考えたスイスの児童心理学者は誰か。正しいものを次の①～④から一つ選べ。

- ① エリクソン ② ピアジェ ③ マズロー ④ シュプランガー

問7 下線部(f)について、フロムのように、現代社会を生きる人々の在り方や生き方を分析した思想家に関する説明として最も適当なものを、次の①～④から一つ選べ。

- ① ボードリヤールは、現代社会では、多様な現実を単一の思想的枠組みに還元する「大きな物語」は成立しないので、現代の人々は、個々の具体的な状況の中で思索する「小さな物語」を生きるしかないと指摘した。
 ② マックス＝ウェーバーは、現代社会における組織の運営や管理は官僚制によって支えられており、官僚制が浸透すればするほど、人々はますます合理的に行動するようになって、宗教への信仰を捨てて経済活動に勤しむようになっていくと指摘した。
 ③ リースマンは、現代社会を生きる人々は他人指向型であるとし、他人や世間のあり方に敏感で同調しやすく、また、権威や世論の影響を受けやすいという社会的性格を持つので、群衆の中にいることで孤独を癒し、深い安心感を確保していると指摘した。
 ④ リップマンは、現代社会の人々は、メディアによって伝えられる情報が事実かどうか確かめる手段を持たず、情報をそのまま事実として受け取る傾向があるので、情報操作で作られたイメージによって世論を形成してしまう危うさがあると指摘した。

問8 下線部(g)に関連して、以下の言葉を残し、ノーベル平和賞を受賞した人物についての説明として最も適当なものを、下の①～④から一つ選べ。

飢えというのはただ、ひときれのパンゆえではなく、愛に飢えていることです。富んでいる国々で多くの人々は愛に飢えています。

裸とは、ただ一枚も衣服がないゆえではなく、人間の威厳や尊厳を失っているということです。家なしとは、ただレンガづくりの家がないゆえではなく、拒絶され、受け入れられず、愛されないことなのです。

『生命あるすべてのものに』（講談社現代新書、1982年）より

- ① 30歳までは学問と芸術に生きるが、その後は直接人間に奉仕する道に進むと決意し、実際に医学を学んでアフリカに渡った。生命あるものすべてを価値あるものとして尊ぶ「生命への畏敬」を唱え、医療とキリスト教伝道に励み、「密林の聖者」と呼ばれた。
 ② アメリカの黒人解放運動を非暴力の下で指導し、平等な公民権を求めて実施したワシントン大行進の際には「私には夢がある」と演説して、差別のない社会の実現を訴えた。公民権法の制定に大きく貢献したが、その後、暗殺された。
 ③ 「貧しい人々の中で最も貧しい人たちに仕えるように」という内なる呼び声を聞き、インドのスラム街で最も弱い立場の人々への献身的な奉仕活動に打ち込んだ。死にゆく人を看取る「死を待つ人の家」などをつくり、世界中の人々から敬愛された。

- ④ イギリスの植民地であったインドの独立をめざし、非暴力・不服従の運動を指導した。平和と生命への愛という真理の力によって闘い、相手の良心に訴えて暴力の不正義を悟らせ、真理を実現することを唱え、「マハトマ（偉大な魂）」と呼ばれた。

問9 下線部(h)について、生徒Hは、複数のグラフを参照して男女共同参画社会の現状と課題をレポートにまとめた。以下のグラフに基づくレポートの内容として最も適切なものを、下の①～④から一つ選べ。

図1：女性の年齢別労働力率
「労働力調査」(2018年)

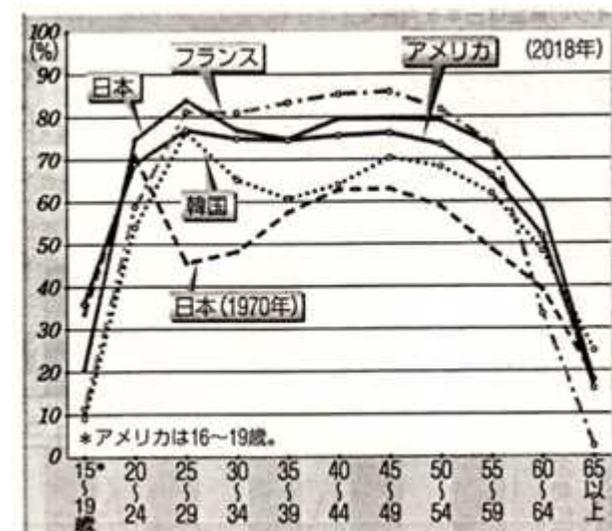


図2：パートタイム労働者数の推移
「労働統計要覧」(2017年)



図3：男女の賃金格差
「賃金構造基本統計調査」(2017年)

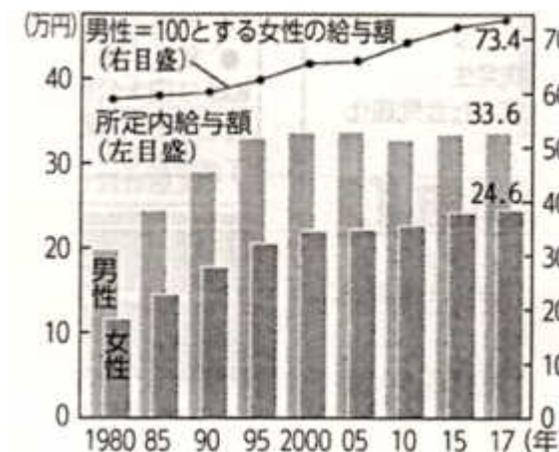


図4：企業規模別育児休業取得率
「雇用均等基本調査」(2017年)

	500人以上	100～499人	30～99人	5～29人	合計
男性	4.98%	5.58	3.06	6.13	5.14
女性	92.6%	92.7	88.1	72.5	83.2

- ① 女性の社会進出が進み、40代以降に仕事に復帰する女性も増えているが、パートタイム労働者として働く者も多く、平均給与が男性の7割ほどに留まるなど、依然として男女格差が残っている点が課題である。
- ② 1970年と比べると、女性は結婚や出産を経ても仕事を継続できるようになり、労働条件も男性と変わらない水準になっているが、家庭で育児を担うのはまだほとんど女性である点が課題である。
- ③ パートタイム労働者のうち、女性の占める割合は約45%で、残りの約55%は男性が担っているため、男性の方が時給制による長時間労働になりやすく、その影響で育児休業取得率が女性より著しく低くなっていることが課題である。
- ④ 女性が結婚や出産を機に退職することによって20代後半から30代の女性の労働力が大幅に減るといった状況が改善され、労働力の45%以上を女性が担うまでになっているのに、男性の育児休業取得率が5%未満に留まっているのが課題である。

問10 本文の内容に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 精神分析学は、夢分析などの手段を通して、無意識の領域にあるものを意識化し、本人が気づいていなかった課題に気づかせることで、心の健康を取り戻し、人格の全体的な統合と成熟を促進するものであるといえる。
- ② 青年期における恋愛の意味は、男性原理と女性原理の葛藤の中で自己の無意識と対決しながら、現実の恋愛関係とはまったく別のファンタジーの世界に没入することで、男女の性差を超えた存在になることにあるといえる。
- ③ 男女が共同で社会に参画していく現代社会においては、男女が意志の力で愛し合うことが大変重要であり、お互いの人格全体を受容しあうことで、男性本来の役割と女性本来の役割を分業によってしっかり果たしていくべきだといえる。
- ④ 人間は抑圧や投影などさまざまな防衛機制を無意識に働かせてしまうので、夢を見ても覚えていないことも多いが、民話や神話に出てくるキャラクターの助けを借りて、夢を現実にする方法を会得していくべきだといえる。